

VI 生涯スポーツ学研究科

- 1 . 平成27年度教育課程表
- 2 . 教育課程編成について
- 3 . 学位授与へのプロセス
- 4 . 教職課程について

Ⅵ 生涯スポーツ学研究科

1. 平成27年度教育課程表

生涯スポーツ学専攻 専門科目

○単位は必修

授 業 科 目	授業形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
基礎教育領域							
生涯スポーツ学特論	講義	②				小坂井 留美	集中講義
生涯学習学特論	講義	②				谷川 松芳	
生涯スポーツ施策特論	講義			2		上田 知行	集中講義
地域スポーツ振興特論	講義			2		永谷 稔	
スポーツ生理学特論	講義	②				川初 清典	
環境・スポーツ適応協関特論	講義	②				花井 篤子	
応用教育研究領域 スポーツ科学教育研究分野							
トレーニング科学特論	講義	2				井出 幸二郎	
スポーツバイオメカニクス特論	講義	2				山本 敬三	
スポーツコンディショニング特論	講義		2			吉田 真	
アスレティックリハビリテーション特論	講義		2			吉田 昌弘	
身体運動機構特論	講義			2		浅賀 忠義	集中講義
スポーツ科学演習Ⅰ	演習	2				山本 敬三	スポーツ科学教育研究分野必修
						井出 幸二郎	
						川初 清典	
スポーツ科学演習Ⅱ	演習	2				山本 敬三	スポーツ科学教育研究分野必修
						井出 幸二郎	
						川初 清典	
応用教育研究領域 応用健康科学教育研究分野							
健康医科学特論	講義	2				沖田 孝一	
休養・睡眠学特論	講義	2				小田 史郎	
健康運動科学特論	講義		2			花井 篤子	
						川初 清典	
栄養学特論	講義		2			土屋 律子	
応用健康科学演習Ⅰ	演習	2				小田 史郎	応用健康科学教育研究分野必修
						沖田 孝一	
						花井 篤子	
応用健康科学演習Ⅱ	演習	2				小田 史郎	応用健康科学教育研究分野必修
						沖田 孝一	
						花井 篤子	

授 業 科 目	授業形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
応用教育研究領域 スポーツ教育学教育研究分野							
冬 季 ス ポ ー ツ 指 導 特 論	講義	2				竹 田 唯 史	
ジュニアスポーツ指導特論	講義	2				大 宮 真 一	
学 校 体 育 特 論	講義		2			増 山 尚 美	
野 外 活 動 特 論	講義	2				青 木 康 太 朗	集中講義
障がい者スポーツ指導特論	講義			2		和 史 朗	
障がい者心理学特論	講義			2		佐 藤 至 英	
ス ポ ー ツ 心 理 学 特 論	講義			2		蓑 内 豊	集中講義
ス ポ ー ツ コ ー チ ン グ 特 論	講義		2			菊 地 はるひ	集中講義
ス ポ ー ツ 教 育 学 演 習 I	演習	2				竹 田 唯 史	スポーツ教育学教育研究分野必修
						川 初 清 典	
						小坂井 留 美	
ス ポ ー ツ 教 育 学 演 習 II	演習		2			竹 田 唯 史	スポーツ教育学教育研究分野必修
						川 初 清 典	
						小坂井 留 美	
研究指導							
特 別 研 究 指 導 I	演習		←④→			井 出 幸 二 郎	集中講義
						沖 田 孝 一	
						小 田 史 郎	
						川 初 清 典	
						小坂井 留 美	
						佐 藤 至 英	
						竹 田 唯 史	
						花 井 篤 子	
						山 本 敬 三	
						吉 田 真	
吉 田 昌 弘							
特 別 研 究 指 導 II	演習			←④→		井 出 幸 二 郎	集中講義
						沖 田 孝 一	
						小 田 史 郎	
						川 初 清 典	
						小坂井 留 美	
						佐 藤 至 英	
						竹 田 唯 史	
						花 井 篤 子	
						山 本 敬 三	
						吉 田 真	
吉 田 昌 弘							

2. 教育課程編成について

1) 教育課程の基本構成

本研究科の教育課程は、冰雪寒冷圏域を中心的対象とする生涯スポーツの専門基盤的な大学院レベルの学識を養成するために基盤部分に「基礎教育領域」を、スポーツ科学に関する高い専門性と実践力を養成するために応用発展部分に「応用教育研究領域」を2階層で構成し、基礎から応用へと段階的に専門的学識の教育を図る2階層構造の教育課程編成とした。

関連する学問の基礎力に支えられて個別の応用的専門分野で独自課題の解決に取り組む教育課程を構想した。「基礎教育領域」には冰雪寒冷圏域を中心的対象とする生涯スポーツの教育研究に取り組む上で必要な科目を配置した。「応用教育研究領域」には、「スポーツ科学教育研究分野」「応用健康科学教育研究分野」「スポーツ教育学教育研究分野」の3分野を位置付け、それぞれの分野で、生涯スポーツの要素である各々の専門的知識を学修する。

①基礎教育領域

基礎教育領域では、本研究科が冰雪寒冷圏域を中心的対象において生涯スポーツ社会の推進を目指す上で、必要な基礎的理論を学び、さらに、冰雪寒冷圏域固有の気候・風土下にあるヒトの適応能力に関する基礎的理論を学修する。この領域で展開される科目は、修士の研究活動を行う上での学問的基盤となる。基礎教育領域には必修4科目、選択2科目を配置し、冰雪寒冷圏域を中心的対象とする生涯スポーツの基盤的学識や素養を堅固にし、応用教育研究領域への発展につなげる。

②応用教育研究領域

基礎教育領域において冰雪寒冷圏域を中心的対象に置く生涯スポーツ学の基盤知識を備えたうえで、応用教育研究領域は特に冬季環境を根幹要素に包含する生涯スポーツ学を特化し、その深化を図る領域とする。「スポーツ科学教育研究分野」「応用健康科学教育研究分野」「スポーツ教育学教育研究分野」の3つの教育研究分野に所属して専門的知識・実践研究能力を高度化する。応用教育研究領域の3分野は冰雪寒冷圏域を中心的対象とする生涯スポーツに関わる独自の教育研究を推進し、生涯スポーツ学の体系化に資する。

スポーツ科学教育研究分野

本教育研究分野では、スポーツ科学の側面から生涯スポーツの理論化・高度化に貢献する人材を養成する。生涯にわたってスポーツ付加価値を享受するため、あるいは競技スポーツのパフォーマンス向上のために体力向上や運動遂行の最適化が重要であり、自然科学的な分析・評価手法を修得させ、エビデンスに基づく運動とトレーニングを指導できる知識能力を身に付けさせる。

応用健康科学教育研究分野

本教育研究分野では、健康科学におけるスポーツの必要性から生涯スポーツの理論化・高度化に貢献する人材を養成する。冰雪寒冷圏域には積雪寒冷や凍結などの特有の気象環境があり、その条件下で暮らす人々には独特の健康問題が存在する。スポーツ活動は、これらの健康問題に対して有益に働くことが多くは経験的に知られている。本教育研究分野では、これらの特有の健康問題に関する総合的な学識を明確に備えた上で、この気象条件下に暮らす人々の健康付加価値の

享受に役し、医療機関における有リスク・ハイリスクアプローチあるいは予防医学におけるポピュレーションアプローチの両側面に対して包括的に生涯スポーツの面から健康づくり支援を行うことのできる高度な人材を養成する。

スポーツ教育学教育研究分野

本教育研究分野では、生涯スポーツ学におけるスポーツ教育の必要性から生涯スポーツの理論化・高度化に貢献する人材を養成する。本教育研究分野では、人々が健康で文化的な生活を営み、生涯にわたってスポーツ付加価値を享受するために、生涯スポーツ各種目の指導方法と実践技術の修得に関する理論を探究し、高度に実践応用できる人材を養成する。

2) 教育課程の基本構成

基礎教育領域の必修4科目を1年次前学期に受講する。1年次前学期（6月）に行われる「コリキウム（第一）」にて研究計画の発表・検討を行った後に、応用教育研究領域のいずれかの分野に所属する。応用教育研究領域の各分野では、研究に必要な講義科目を1年次前学期から2年次前学期までに受講する。専門分野に偏重することなく、生涯スポーツに関する幅広い知識を修得するために、所属する主教育研究分野以外の教育研究分野で開講される科目からも最低1科目2単位以上履修する。応用教育研究領域の分野必修科目として、1年次の前・後学期に各分野で「演習Ⅰ・Ⅱ」を履修し、研究に必要な知識の収集方法や測定・分析技術を修得する。修士論文作成は1年次前学期から2年次後学期までの必修科目「特別研究指導Ⅰ・Ⅱ」で行う。

3) 研究科の修了要件

必修6科目16単位、分野必修2科目4単位を含め合計32単位を取得し、修士論文の審査に合格することとする。標準就業年数は2年とし、最長4年間の在学を可能とする（長期履修制度）。

生涯スポーツ学研究科の修了要件

科目区分		修了必要単位数
基礎教育領域	必修科目	8単位
	選択科目	12単位以上
応用教育研究領域	選択科目	※ 所属分野以外の科目または基礎教育領域の選択科目から1科目2単位以上を取得すること
	分野必修科目	4単位
特別研究指導（修士論文）		8単位
合計		32単位以上

4) 社会人の履修について

大学設置基準第14条による教育方法の特例について、一部夜間の授業実施や土曜日・長期休業中における集中講義等に対応する。実施にあたっては、予定指導教員へ相談のこと。

3. 学位授与へのプロセス

入学後、研究目的・計画および研究指導教員に関する希望調査に基づき、教育研究分野並びに研究指導教員1名、副指導教員1名以上を暫定的に選定する。これらの研究指導教員が院生と個別に面談し、履修指導、研究目的・計画の指導を行う。

1年次には「特別研究指導Ⅰ」と所属分野の「演習Ⅰ・Ⅱ」を履修する過程において、研究計画を作成する。6月には研究計画の検討会として「コロキウム（第一）」を公開で実施し、研究科全教員による研究計画に関する評価・指導を行う。これを踏まえて、所属する教育研究分野と研究指導教員および副指導教員を正式決定する。

1年次前・後学期にかけて研究指導教員および副指導教員による複数体制で「特別研究指導Ⅰ」を行い研究を進める。

2年次には、「特別研究指導Ⅱ」を履修して研究論文作成を進める。10月には論文作成に向けての検討会として「コロキウム（第二）」を公開で実施し、全教員による論文内容の評価・指導を受ける。翌年1月末に修士論文を提出し、2月に学位論文の審査を受ける。

また、院生は国内外のスポーツ系、体育系、体力医学系の全国規模の学会にて、研究発表することを学位授与の要件とする。

修了までのスケジュール

1 年 次	入学直後	<ul style="list-style-type: none"> ・講義要綱、大学院便覧に基づいたガイダンス ・教育研究分野を暫定的に選定 ・教育研究分野から研究指導教員1名、副指導教員1名以上を暫定的に選定
	前学期	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎教育領域の必須科目を履修 ・研究指導教員（暫定）による履修指導、研究目的および計画の指導 ・「特別研究指導Ⅰ」と所属分野の「演習Ⅰ」を履修 ・コロキウム（第一）…研究計画の公開検討会（6月） →教育研究分野と研究指導教員および副指導教員を正式決定
	後学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導教員および副指導教員による複数体制での研究指導 ・「特別研究指導Ⅰ」と所属分野の「演習Ⅱ」を履修
2 年 次	前学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導教員および副指導教員による研究指導 ・「特別研究指導Ⅱ」を履修
	後学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導教員および副指導教員による研究指導 ・「特別研究指導Ⅱ」を履修 ・コロキウム（第二）…論文内容の評価・指導（10月） ・修士論文の完成、提出（1月） ・学位授与審査（2月）…論文審査、口述試験、発表会（公開審査）

学位・修士（スポーツ科学）授与

4. 教職課程について

生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻では、下記に示す専修免許状の課程を有している。

既に中学校教諭一種免許状（保健体育）又は高等学校教諭一種免許状（保健体育）を有している者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定められた科目を修得することにより、当該免許状の専修免許状を取得することができる。

専修免許状の取得を希望する者は、本研究科において、基礎資格として修士の学位を取得し、北翔大学大学院教職課程履修規程別表第3の規定に従って24単位以上を修得する必要がある。

（Ⅸ 諸規程・資料2 北翔大学大学院教職課程履修規程 99p. 参照）

研究科	専攻	免許状の種類及び教科
生涯スポーツ学研究科	生涯スポーツ学専攻	中学校教諭専修免許状（保健体育） 高等学校教諭専修免許状（保健体育）